●特集● 夜間中学が切り開く学習の自由

夜間中学校における国語の授業づくり
—「生活基本漢字」の選定とその指導を中心に

夜間中学校に入学を希望してくる人の中には，ひらがな・カタカナの読み書きから学ばなければならない人もまれではない．そうした人たちのために，ぎりぎりこれだけは生活に欠かせない「生活基本漢字」を精選し，その効果的な定着を図っている．ここでは，生活基本漢字をどのように選び，それをどのように指導してきたかを報告する．

見城慶和

はじめに
—不就学生徒の対応を迫られた夜間中学

夜間中学校は，第二次大戦後の六・三制義務教育において，おもに貧困のために家計を助けて働かなければならない学齢の長欠生徒たちを救済する応急措置として開設された．

ところが1960年代の後半ごろから，義務教育の「救急学校」ともいうべき夜間中学校に，戦中・戦後の混乱で就学経験をもてなかった学齢超過者が多数入学してくるようになった．この人たちの中には，ひらがな・カタカナの五十音や，数字の読み方などから勉強を始めなければならない人もいた．こうした人たちは学年別クラスでの学習は無理なので，はじめは個別指導で対応していた．しかし人数が多くなると個別では対応しきれなくなり，東京都内の夜間中学校ではどこでも，学年を解体した進度別のクラス編成に切り替え，「基礎学力促進クラス」を特設するようになった．

1970年からは都内8校の夜間中学校に勤務する教員たちが毎月定例の研究会をもち，この人たちに合った基礎教材の開発や，効果的な指導法の実践交流をするようになった．こうした活動に応えて東京都教育委員会では，1974年から「東京都中学校二部授業資料開発事業」の特別予算を組み，年に2教科ずつの自主教材テキストが作成されるようになった．2001年までの27年間で，62冊（国語18・日本語11・数学13・社会5・理科8・その他7）の自主教材テキストが作られた．

●けんじょう・よしかず●
1961年から42年間，都内の夜間中学校に勤務．退職後は自主夜間中学『えんぴつの会』の運営スタッフとして活動．国字問題研究会第二代委員長・基礎教育保障学会・顧問．

1 生活基本漢字の選定

ひらがな・カタカナ・漢字などを大人になってから覚えるのは，吸収力の高いこどもの時とは違って大きな困難を伴う．中でも最も困難なのが漢字である．夜間中学校での漢字教育は，学年別漢字配当表や常用漢字表に準拠した教科書で教えている一般の小・中学校とは違った工夫が必要となる．やさしい字から順に学んでいく時間的なゆとりもないし，それでは学習効果も上がらない．多少難しい漢字であっても，それが生活に欠かせないもの

キーワード：生活基本漢字（basic kanji necessary for daily life），漢字の精選（selecting kanji），
手首化・肉体化（memorize kanji by hand & master the kanji in the body），漢字の使用率（kanji usage rate）
著者連絡先：yoshikazu.kenjo@jcom.zaq.ne.jp

であれば意欲的に学ぼうとするし，定着も早い．たとえば，働いている人ならば給料明細が読めなければ困るし，職を求めている人なら履歴書が必要となる．また町会の回覧板や，学校や保育園などからのお知らせが読めなくては困る．病院や郵便局・銀行などでも一人で用が足せなければ安心できない．

私たちは，こうした生徒たちのさまざまな日常生活場面で必要とされる漢字を「生活基本漢字」として精選し，それを彼らの生活文脈の中で教材化するテキスト作りに取り組んだ．

生活基本漢字の選定にあたって私たちが参考とさせてもらったのは，東京都豊島区立大塚中学校の特殊学級（特別支援学級）担当の山田一彰先生が中心となって作られた『国語語イ表』であった．これは次のような3本の柱立てで「語イ」が選ばれていた．

①身をまもるための語イ
（住所・氏名・保護者・学校名・校長名・担任名）

②社会生活に必要な語イ
（病院・看板・身体部位）

③生活にうるおいをもたせる語イ
（交通機関・都道府県名・世界の国名）

これを参考にして，私たちは生活漢字選定の柱立てを，次のような14項目とした．

①基礎	②履歴書	③衣食住
④身体	⑤病院	⑥公共施設
⑦標識	⑧交通	⑨自然
⑩地理	⑪職業	⑫学校生活
⑬社会生活	⑭個人生活	

項目ごとの漢字の選定にあたっては，必要な場合には生徒の家庭や職場訪問をして，使用語イをカードに記録する作業をおこなった．また駅の案内表示や郵便局・銀行・公共施設での手続きや，施設利用などに必要な用紙を集めて，そこに使われている漢字の検討なども重ねた．国立国語研究所がまとめた『分類語彙表』（秀英出版，1964）なども漢字選定の参考書として活用させてもらった．

漢字選定作業で最も心掛けたのは，“惜しがり心理”を排することだった．あれも必要，これも必要と考えたら際限もなく増えてしまうので，どの字を残すかで見解が分かれたときは，可能な限り字数を少なくすることをこころがけた．

こうした必要最小限の漢字を精選する作業を3年間つづけて，ようやく381字までにしぼり込むことができた．私たちはこれを「生活基本漢字」と名づけ，1975年度に，自主教材テキスト『国語二』として発行することができた[1]．

2　生活基本漢字381字

漢字を精選する作業は14の項目にそって進めたが，同じ漢字がいくつかの項目にだぶって選び出された場合は，初出の所にだけに掲げることにした．

①**基礎**（51字）
一二三四五六七八九十百千万時分円日月火水木金土字枚人大中小前後左右上下多少熱冷半広赤青黒白黄明治正昭和

②**履歴書**（25字）氏名男女生年歳親父母夫妻兄姉弟妹子住所本籍印履歴〈才婦〉

③**衣食住**（24字）衣食寝起部屋階家紙飲米油魚肉買酒高安売服着糸電気

④**身体**（21字）体目耳歯手足指骨口胸頭腹鼻息顔首血胃身病院

⑤**病院**（15字）救急入受付内科外児診察室医者薬

⑥**公共施設**（22字）公共役保健福祉職業安定園銀行郵便警察番号施設

⑦**標識**（18字）看板標識注意非常危険禁

煙自動押引出洗

⑧交通（14字）交通車運乗転地鉄道路駅普期特

⑨自然（17字）春花川雨夏夜田草空海昼山秋風石冬朝

⑩地理（65字）地図北南道東西都県府区市町村近方関州（この他に都道府県名に使用する漢字）

⑪職業（27字）仕事会社営商店届働務工場作募集労休給料税失欠勤当組合残

⑫学校生活（29字）学校教勉強週間始終徒先国語数理英音楽美術育技卒式〈記活係庭曜〉

⑬社会生活（30字）世界新聞放送無責任害政良悪貧弱不自由法律憲平民主義権利選戦争

⑭個人生活（23字）物知思友信感考愛願書様他見言心性命持〈話読使泣笑〉

数が少ないといっても381字もあるので，なかなか覚えられるものではない．そこで生活場面で無理なく覚えられるような工夫を凝らした．例えば，引っ越しを手伝ってくれた友人を接待するという設定で，「お茶を入れるよ．なんにもないけど夕食を食べていきなよ．」という会話を想定し，「茶・食」を覚えてもらうというような工夫である．漢字選定の14の柱立てに沿って，私たちは，夜間中学生たちの生活文脈の中にそれぞれの漢字を当てはめたテキストを作りあげた．

3　生活基本漢字のテキスト例

「一…基礎」

「一，二の三でとびおきろ．／四の五のいっているひまはない．／いつも朝めし，六，七分．／たまにはゆっくりたべたいが，八時のしゅっきんじこくにまにあわない．／仕事をはじめて，九時，十時．／あっというまに，おひるどき．／ひるめしだいは，三百円．いつものていしょく，たいらげる．／月，火，水，木，金よう日，土よう日はすこしくたびれた．／あしたは，たのしい，日よう日．／一万円さつや千円さつは，なん枚のこっているだろうか．／赤字になったら，たいへんだ．青いかおしてかぞえてる．／どんなセーターかうかな．／かのじょは白がよくにあう．黒もあんがいぴったりだ．／黄いろのもようがかわいらしい．／すこし大きめのがいいのかな．／小さいのではきゅうくつだ．／中っくらいのはないかしら．／前からみたり，後ろからみたり，えらんでる．／半がくにねぎってみるのは，むりだろうか．／おみせの人が，わらっている．／あたまが，かっかと熱くなる．／あわてて左右みまわした．／明治の人は，おしゃれじゃない．／大正の人は，少しおしゃれ．／昭和の人はどうかしら．／少ないおかねだ．／広いおみせに，多いしな．／まよってしまうのがあたりまえ．／上から下まで，かけおりた．／そとのかぜはもう冷たい．

「二…履歴書を書こう〈履歴書〉」

氏名とは，「みょうじ」と「なまえ」のことです．／あなたの氏名を，正しく書きましょう．／氏名はよみかたのむずかしいものがありますので，よみがなを，ひらがなで，上に書きましょう．じぶんの生まれた生年月日を書きましょう．／あなたの年齢は，なん歳ですか．／父や母を親といいます．／父と母を両親ともいいます．／続柄は，あなたからみた関係です．／男のきょうだいは，兄と弟です．／女のきょうだいは，姉と妹です．／男の人の配偶者を，妻といいます．／女の人の配偶者を，夫といいます．／二人をさして，夫妻（夫婦）といいます．／あなたの現住所は，どこですか．／子どもがいる人は，氏名を書きます．／家族の氏名を書きます．／家族の名前，続柄，年齢はまちがえないで，正しく書きましょう．／印は「はんこ」ともいいます．／最後

に，印を忘れないでおしましょう．

4 「手首化・肉体化」を目指す

テキストの文章は，どれも普通に読めば2分くらいで読める短い文章にしたが，それでも最初は大変な時間がかかってしまう．それを暗唱できるくらいまで根気よく読む練習をくり返す．最後にストップウオッチで計って2分台で読めるようになったら合格とする．次に文章を正確に書写する練習をくりかえす．ここでは特に促音や拗長音の表記，漢字の筆順などを正しく覚えてもらうようにしている．最後に文章から取り出した生活基本漢字の「読み」と「書き」のテストをする．自動車教習所方式で，一人一人に「生活基本漢字学習進度表」を持たせ，ステップごとにきちんと記録して，その時々の学習の達成度と次の目標が，学習者にも指導する担当者にも一目で分かるようにしている．読み書きともに速さを要求するのは，条件反射能力をつけるためである．文字をみたら音や読みが，音や語が浮かんだらそれを表記する文字がパッと反射的に浮かぶようにするためである．この能力を，国語学者の大久保忠利は，「手首化・肉体化」と名づけている．この力が身についていないと，覚えたはずの字でも人前では手が震えたりして書けなかったりする．

おわりに―生活基本漢字の有効性―

国立国語研究所では1966年に，その年の三大新聞（朝日・読売・毎日）に使われた全漢字をコンピューターで処理し，統計的に漢字100万字を取り出して，どの字が何回使われたかを一覧表にまとめた．これは『現代新聞の漢字』という本になって1976年に出版されている．この一覧表を見ると，使用漢字のべ総数100万字は，3213字の漢字〈異なり文字〉である．さらに個々の漢字の使用率をみると，使用度の高い上位500字までの漢字で，実に79.4％の使用率をみたし，使用度の高い漢字1000字では実に93.9％の使用率をみたしていることが分かる．

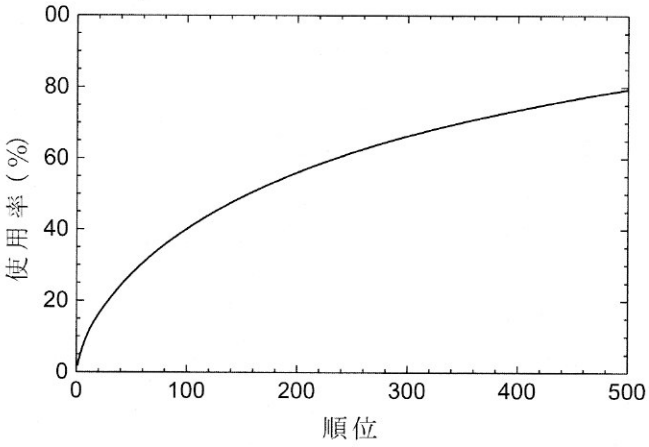

図1　漢字使用の順位と率

私たちが生活基本漢字として精選した381字をこの一覧表で照合してみると，都道府県名に使用されている特別な漢字を除けば，そのほとんどが使用率上位漢字にランクされていることが分かる．使用率をみると，生活基本漢字381字で，漢字使用率の約60％を満たしているので，これだけの漢字でも新聞などが何とか読め，手紙などを書いたり，生活の中でメモをとったりすることもできる．ダイヤモンドのような生活基本漢字をしっかり習得すれば，あとは磁石が砂鉄を吸いつけるように，それぞれが必要とする漢字を覚える力がついていくこともわかった．

1946年11月に当用漢字が制定されたとき，その前文には，次のように明記されていた．

「従来，我が国において用いられる漢字はその数がはなはだ多く，その用い方も複雑であったために，教育上また社会生活上，多くの不便があった．それを制限することは，国

表1　教育漢字数の推移

告示	実施・使用開始	漢字表・指導要領・教科書	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	漢字表の計
1946年	1946年11月	当用漢字表								1850字
	1947年4月	学習指導要領(試案)	50	98	150	144	133	109	684	
1948年	1948年2月	当用漢字別表〔教育漢字〕								881字
	1951年4月	小学校学習指導要領(試案)	30	100	150	180	220	201	881	
1958年	1961年4月	小学校学習指導要領	46	105	187	205	194	144	881	
1968年	1971年4月	小学校学習指導要領	76	145	195	197	195	190	996	
1977年	1980年4月	小学校学習指導要領	76	145	195	197	195	190	996	
1981年	1981年10月	常用漢字表								1945字
1989年	1992年4月	小学校学習指導要領	80	160	200	200	185	181	1006	
1998年	2002年4月	小学校学習指導要領								
2008年	2011年4月	小学校学習指導要領								
2010年	2010年11月	常用漢字表(改定)								2136字
2017年	2020年4月	小学校学習指導要領	80	160	200	202	193	191	1026	

「国字問題研究会」のまとめ

民の生活能率を上げ，文化水準を高めるうえに資するところが少なくない.」

ここに示された事情は今日も全く変わってはいない．ところが1977年1月に，「当用漢字表」を「新漢字表」に変えることによって，それまでの漢字使用の「制限」を取り払って，漢字の無制限使用を認める方向に切り替えてしまった．それに連動して，教育漢字数も学習指導要領の改訂の度ごとに大幅に増やされることになってしまった．使用率の低い多くの難漢字をつめこむことで，子どもたちに漢字消化不良を起こさせ，それが学力不振や不登校などの大きな原因になっていることも見逃せない．

漢字は多くの長所をもつ文字だが，表意文字として見落としてはならない多くの欠点も持っている．同音異義語が多く，その中から適切な字を選ぶ苦労は大変なものがある．漢字の使い方にこだわると表現が委縮するし，読み手にとっても難解なものになってしまう．

今後ますます多文化共生社会が進み，日本語の習得を迫られる外国人が増えていくことを考えても，日本語習得の一番のネックになっている漢字を適切な字数に精選していくことは，喫緊の課題であると思う．

注

1) 自主教材テキスト『国語二』は「基礎教育保障学会」のホームページの「教材案内」に紹介されているので，ご覧下さい．

参考文献

見城慶和：「夜間中学校における『生活基本漢字』の選定とその指導方法」『月刊社会教育』9, 58-61 (国土社 ,2016).

見城慶和：「生活基本漢字の指導を」，『国語の授業』8, (児言研 ,1978).

大久保忠利：『漢字と教育』(一光社 ,1986).

国立国語研究所：『現代新聞の漢字』(秀英出版 ,1976).